


グループホーム ふくじゅそう

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	基本理念と基本方針をホーム内に掲示し管理者、職員は毎日唱和し確認しながら介護に活かすようにしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	ホールの入り口に、理念を掲げ、いつでも再確認できるようになっています。常に行動の基本として「スタッフの都合で利用者様のしたい事を拒絶するようなことは絶対にあってはならない。」との意識で毎日の申し送りにて唱和し確認している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		理念が浸透できるように、今後も続けて行きたい。
	訪問の際、掲示物を見ていただき、説明しています。地域運営推進会議等でご家族や地域の方に理念の実践を知っていただき理解を得る様に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日頃から気軽に立ち寄って頂ける様な関係を築いていきたい。
	朝の散歩で近隣の方と挨拶を交わしたり、会話をしたりする良い機会となっています。花や作物、果物などを届けて頂いたり、ご自宅訪問のお誘いをして下さったりのお付き合いが出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	4つの自治区と交流を図り行事へ参加、出演、模擬店等を行っている。(運動会、敬老会、文化祭等) 地元の方と交流できるように努めている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体で地域の行事(盆踊り、夏祭り、敬老会等)に積極的に参加しており、地域の高齢者が困っていること、悩んでいることがあればいつでも相談にのりますと伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で助言していただいたことは、すぐに実行に移し、成果をあげている。(前回指導を受けた服薬管理についてはチェックシートを再起動するなど)		評価結果に対し、ミーティング等で話し合いを行い改善に取り組んでいる。言葉遣いについて今以上に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、サービスについての報告をし、意見の交換を行っている。緊急時における地域の支援について地域の方より提案をいただいた。(現在、考慮中)		会議の回を重ね、さらに活発な意見交換ができるようにしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに、市担当者に連絡したり、包括支援センターに訪問し空き情報や相談や指導を受けたりして連携はできている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会に参加して学びました。職員も知識として資料を回覧して学びました。必要に応じて支援出来る様により知識を身につけたい。		今後、必要な時には制度を利用できるよう、支援していく。職員が知識を持つように、社内・外研修をしていく必要あり。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自所研修会の折、話し合っています。虐待をしたり、見過ごし、隠すような関わりにおける不透明さはありません。		職員全員が周知できるようにしたい。

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者との話し合いの場を2度3度と持ち充分理解、納得していただいてから契約を結んでいる。(退去時も同様)		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の来訪時(1ヶ月に2度)、相談員の方と入居者は談笑されている。介護相談員の報告を参考にしている。また利用者が意見を言いやすい環境を出来るだけつくり日々傾聴している。利用者のご家族が話された後に、様々な訴えがなかったか確認している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度お便りを発信している。当グループホームの御家族は、頻りに面会にきていただいているのでその都度生活ぶりを報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時、常に会話し、ご要望、ご意見を伺っている。「何にもありません」の答えが多いのですが、その中でも意見を頂いた時には、運営推進会議で課題に上げ話し合い取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝、夕の申し送り、1ヶ月に2回のミーティングを開き、意見、提案がでた場合それを皆で検討し実践している。		機会を設けるだけでなく、発言できる勇気ある人材を育成する。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に対して、すぐ対応が出来る様に努めており職員の協力を得られている。行事などの場合、職員確保、勤務調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない理由で職員が離職する場合、前もってお伝えし色紙に贈る言葉や署名を快くくださっている。さりげなく新しい職員と馴染みの関係が出来るように配慮している。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性格や年齢を不問としている。面接の際にはグループホームで求める素質を一番に置いている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育、啓発活動を年に1回実施している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員出入口に研修パンフ等を貼り希望者を募り積極的に参加を促している。職員は自らもより高い介護知識を勉強している。国家試験等自主的に取り組んでいる。北九州市社会福祉協議会主催の研修に参加している。</p>		<p>今後も積極的に社外研修に参加し、他事業所スタッフとの関わりをもったり、知識を深めるように努めたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設時よりグループホーム協議会に入会して研修会の参加や意見交換の交流を持ち、お互いの質向上には取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時には、悩み等を聴けるように努めている。又親睦会も開催している。</p>		<p>年に一回個人面接を行い集団の中では言えない悩みや意見等を発言する場を設け、職場環境、処遇の改善を常に図る。</p>

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に各自で取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	細やかな声かけに配慮している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時、近況報告をしている。ご家族により様々な意見があり特に初期段階でよく会話をし聞き取りに努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も何度も同じことを、繰り返し話されることに対しても熱心に傾聴している職員の姿がよく見られる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活様式、時間の流れを十分に配慮しながら新しい場に慣れるように徐々に他に馴染んでもらっている。ご家族に細やかな状況報告は欠かせない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人本位の生活ができる様に、よく会話をし共有の時間を持つよう努めている。誉め言葉を多く言うことで、進んで行動したり意見を安心して言われ学ぶことも多い。		

グループホーム ふくじゅそう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	良いことのみならず辛い内容も同じ立場で報告しあえる環境を築いている。ご家族が帰られる時「安心している」という言葉をよく伺う。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	寂しさからか、ご家族のことを悪く言われることがあるが、それぞれの話しを聞くように努めている。思いの届かないことは折をみて伝えてより良い関係が築いていけるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないようにつきあいを大切にしていけるように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人1人の変化を把握し、訴えがなくても職員が感じ取り先走りするのではなく、本人の意思を尊重しながら良い関わりができるよう声かけに努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、相談があればいつでも受けますと意向を伝えていく。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常に一人ひとりの状態を把握し、その人にあわせた1日を過ごしていただいている。(その日、その時に応じて把握するように努めている)		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り本人の希望に添えるように、計画を作成し、その人にあわせてできることを、少しでも増やせるように、プランに取り入れている。又センター方式を用いてこれまでの暮らしを把握したり、ご家族より情報収集を行ったりしながら把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人との会話、動きの観察、来訪時のご家族との会話などから把握するように努めている。特に入浴時や散歩時1対1で会話している時、ふっと思わぬ言葉が出ることがあり、見逃さないようにしている。		効果的なアセスメントを行っていく必要あり。(H19年よりセンター方式導入)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案の際に本人との会話、動きの観察、又は家族から生活の意向を聴き、プランに反映できるように話している。		利用者本人も自分の生活について考える事ができるような場を提供できればと思う。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、身体的、精神的変化に基づき介護計画の変更を行うように努めている。		利用者個別の計画期間を考慮する必要あり。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの健康状態、日常生活を具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの催しの参加で楽しみの幅を広げている。		

グループホーム ふくじゅそう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の社会福祉協議会長のもと、民生委員との交流の機会を設けている。 ボランティアに関しては、行事等の参加のみならず日頃より気軽に来所されている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設した居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携をとっている。		今後も本人が意向、必要性を求めているかを、把握していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは必要に応じて情報交換や相談をし、協力関係は築かれている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一ヶ月に一回かかりつけ医の往診がある。日常の状態観察を行い、変化の把握に努めている。異常のある時は、電話にて相談、受診したり、指示を受けたりして支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心身の変化や異常発生時など記録をとり、医師へ相談及び指示、助言をいただき、必要に応じて主治医から専門医を紹介していただいている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ケアマネジャーが看護師であり、他に看護職員1名おり、常に健康管理、状態変化に応じた支援が行える。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院中は時々面会に行き、本人の状態を把握するようにしている。家族や病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時に家族の意向、本人の意向を確認している。ご家族とは繰り返し話しをしている。全員で方針を共有できるよう準備、調整をしている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	症状に応じて本人、ご家族の意向を再確認し検討している。		チームとしての検討や準備については、今後の取り組み課題である。
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	住み替えのダメージを考慮した対策をご家族と検討している。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	その人、その人に合わせた言葉かけを行っている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に声かけを行っている。利用者に自己決定できるような、声かけを心がけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの一日の流れにある程度添ってはいるが、本人の体調、気分等を考慮した支援を行っている。個別で買い物に行ったり、という支援も心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	男性2名、ホーム外で理容される。パーマ希望されたり、染色されたり、好みに応じて支援している。できる方は自分で服を選び、更衣されている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け、盛り付けなど、職員と一緒にいき、食事と一緒にテーブルでしている。話題を提供し、笑いのある楽しい時間がとれるよう、心掛けている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事、飲み物、おやつは本人の嗜好、体調を考慮して提供している。誕生日には本人の希望のメニューを提供している。手作りケーキもあわせて提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導により日中は布パンツにパット使用で過ごされるよう支援している。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴を支援している。利用者の体調や本人の意志を確認しながら入浴支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間は利用者の活動リズムに合った支援をしている。今までの生活リズムを崩さず、昼寝される方はされている。殆どの方は良眠されており、たまに夜間に片づけを始めたりして眠れない方がいても、習慣的ではない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、掃除や洗濯物干し、たたみをして役割を担っていただいている。外出希望の方は、一緒に外出したり、バスハイクしたりしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、好きな物を買ったときは、自分で支払いされるよう、お金を所持し、使用してもらう。一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に左右されますが、毎日の散歩は、特別な事情がない限り実施している。買い物外出は声かけし、希望される方は同行する。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎にバスハイクや外出を計画し、季節感を味わい、気晴らしして頂いている。ご家族をお誘いすることもある。ご家族と墓参り、外食など楽しんでいただいている。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。年賀状は全員に勧め希望する方は出されている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるよう、声かけしている。行事に際しては電話や来訪時にお誘いして来る方の機会を多く持って頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で検討している。声かけによる拘束などがないか、その都度討議している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組んでいるが、入浴時、勤務交替の申し送り時など、スタッフの人数が少なく、目が行き届きにくい時は施錠している。		できるだけ施錠しないように努めたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認を怠らないようしているが、ベランダや玄関に移動されている時は職員同士声かけ、所在を知らせ合い見守り支援している。夜勤交代時は必ず人数確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族の希望、本人の管理能力を職員で確認し危険のない範囲で持ち物管理をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書などを活用し、ミーティングにいかしている。又、職員間で事故につながるようなことを、常に話題に取り上げ、事故防止に取り組んでいる。		

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内及び併設するデイサービスに看護師がおり、常に連携をとって、緊急時に備えている。消防避難訓練時、職員は応急手当や初期対応の訓練をしている。		定期的に消防署に協力を求めた訓練も今後取り入れていきたいと思う。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回利用者と共に避難訓練を実施している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族には近況状況として会話をし、起り得るリスクについて説明し、本人にとって最善の生活状態が保てるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	細かな観察と申し送り及び申し送り帳を利用した情報を共有し、一致した速やかな対応をしている。体調の変化、異変があった場合、バイタルチェックし、状況を管理者に報告。必要に応じて受診している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録と一緒に薬の効能書もファイルし、いつでも確認できるようにしている。又、配薬は誤薬がないよう、3度確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を十分にすること、身体を動かす事の取り組みをしている。繊維質の食べ物や乳製品(ヨーグルトなど)を取り入れた食事を提供している。		食材等で便秘解消ができるようにさらに工夫していきたい。

グループホーム ふくじゅそう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1回歯科往診を受け治療を行っている。毎食後の口腔ケアの声かけ、一部介助、全介助の支援をしている。共同洗面所を利用して個々の入居者の口腔ケアを見届け支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では調理師が管理している。必要な方は食事量、水分量を記録している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり来訪者、職員は手洗い消毒を実施している。ご家族の協力も得ており来訪時は自発的にされている。季節や時に応じて予防対応の研修を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行をしている。毎日調理用具、布巾等の消毒をしている。調理職員により新鮮で安全な食材を使用、管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の庭に花を植えたり椅子を置いたりして家庭的な雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井と広い空間を持ち、壁には利用者と共に作った作品や写真が貼られ職員の工夫により季節感溢れる暖かな雰囲気となっている。		

グループホーム ふくじゅそう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはダイニングとソファがあり、ゆったりとした雰囲気になっている。畳コーナー、中庭玄関先にベンチがあり誰でも座れる場所がある。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者に応じての居室の配慮をしている。利用者の状態に応じて空調もこまめに温度調整をしている。各居室に洗面台、トイレ、クローゼットが完備されている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	大きく開放できる天窓があり空気の入れ換えが出来る。温度計を2ヶ所に置き室温の調整をしている。室内は空調でこまめに温度調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレには手すりが設置されている。床はすべりにくい材質でバリアフリーとなっている。一緒に暮らしながらよりよく安全に生活が出来るように少しずつ改善している。更に手すりを加えたりと、必要性を職員が提案する場合もある。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人の能力を活かして、掃除、洗濯干し、食器拭き、買い物、ごみだし、料理などのお手伝い又、他の人の散歩時の手引きなど、職員の見守りをお願いしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩したり、ベランダを利用し外気に触れながら食事をしたり、体操、合唱をしている。中庭の畑の作物の収穫は、作業、食、共に楽しんでいる。		

グループホーム ふくじゅそう

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ふくじゅそう

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・月2回の社内研修会議は必ず実施しており、利用者へのケア、ケアプラン等について、職員が活発に意見を出しあっている。
- ・ケアプラン立案後は、実施票を毎日記載し、目標達成しているかが評価しやすいようにしている。
- ・誕生日には個別に誕生会を開き、家族と共にお祝いをおこなっている。
- ・地域への行事に参加や、お祭りには模擬店を出すなど交流の場として重視している。利用者の参加への支援もしている。